MRI検査に関する説明書

MRI 検査とは?

・強い磁石と電波を使って、体の中を写す検査です。病気の早い発見や治療の計画に役立ちます。

造影 MRI とは?

- ・ふつうの MRI をしたあとに、造影剤という薬を腕の血管から注射して、もう一度撮影します。
- ・お腹の検査では、飲む薬やお腹の動きを止める注射をすることがあります。

1 MRI 検査の偶発症

- 1. 体内に金属がある場合、金属が動いて体を傷つけたり、熱を発してやけどを起こしたりすることがあります。また、歯科インプラントなどの磁石を使用した器具が、強い磁場の影響で使用できなくなることがあります。
- 2. 心臓ペースメーカーや埋め込み型除細動器、脳・脊髄刺激装置や人工内耳などの刺激装置を使用している方は、誤作動による障害を起こす恐れがあり特別な場合を除き、検査を受けることができません。
- 3. めまいや酔いを感じることがあります。
- 4. 検査中に体が温かく感じることがあります。全身状態が著しく不良な方や発汗障害により、 体温調節に異常のある方は十分な検査ができないことがあります。
- 5. 妊娠初期の胎児に影響を及ぼすことがあるため、妊娠 4 週から 16 週の間は検査を受けることができません。

造影 MRI 検査の偶発症

- 1. 造影剤の注入は急速に行うため、注射の部位に痛みや漏れを生じることがまれにあります。
- 2. およそ50人に1人(2%)の確率で吐き気や動悸、頭痛、かゆみや発疹などが起こります。
- 3. およそ 1000 人に 1 人 (0.1%) 未満の確率で、呼吸困難、意識障害、血圧低下、ショック といった重い副作用が報告されています。極めてまれで頻度は不明ですが、様々な処置や治療 にも関わらず、副作用による死亡例も報告されています。
- 4. 検査後、まれに30分から1週間の間に吐き気や頭痛、発疹などが起こることもあります。 症状が続くときは、病院へご連絡ください。

その他

- 1. 腎機能が低下している場合や短時間に頻回の造影検査を繰り返した場合に、まれに腎性全身性線維症と呼ばれる重篤な副作用が起こることがあります。
- 2. 消化管造影剤を服用した場合、軟便や下痢、腹痛を起こすことがあります。
- 3. 検査の直前に再度内容を確認します。

何か不明な点や質問がありましたら、遠慮なくご連絡ください。

連絡先

長野市民病院 Tm 026-295-1199(代) 平日8:30~17:00 MRI 検査室